

令和8年産 JA米基準 美味しいあおば米 コシヒカリの栽培こよみ

目指せ1等米比率90%以上 あおば農業協同組合 各地区農業技術者協議会

今年度の重点対策 ①珪酸質資材、堆肥の継続施用 ②5月15日を中心とした田植え ③適期中干しの徹底 ④出穂後20日間の湛水管理 ⑤カメムシ防除の徹底

栽培基準を守った生産をしよう

収量構成要素の目標		平坦地の田植えは5月15日を中心に										コシヒカリの節間長・葉身長		刈取判定の目安	
収量構成要素	目標値														
目標収量(kg/10a)	540											止葉(L.)	25cm	1.穂の熟色で刈取適期を判定!	
m ² 当たり穗数(本)	400											L ₁ 36cm	第1節間(N ₁) 36cm	2.穂のめやす(株内の平均的な値)	
一穂粒数(粒)	70											L ₂ 35cm	N ₂ 20cm	3.穂の黄化率(50~70%)	
m ² 当たり粒数(粒)	28,000											L ₃ 30cm	N ₃ 16cm	4.線内の穂(上・中位1次枝梗穂)が黄化している	
登熟歩合(%)	87											N ₄ 10cm	N ₅ 4.0cm	5.線内の2次枝梗穂が黄化している	
玄米千粒重(g)	22.5														

生育期

育苗期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穗形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫														
4月26日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	6月10日	6月15日	6月20日	6月25日	7月10日	7月15日	7月20日	7月25日	8月10日	8月15日	8月20日	8月25日	9月10日	9月15日	9月20日	9月25日	10月

水管理

月	日	4月26日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	6月10日	6月15日	6月20日	6月25日	7月10日	7月15日	7月20日	7月25日	8月10日	8月15日	8月20日	8月25日	9月10日	9月15日	9月20日	9月25日	10月						
管理のポイント	● 硅酸質資材の施用と深耕	● 播種は26日を中心(播種は26日より乾燥で120g)	● 田面は均平にする	● 代かきは練りすぎない	● 土壤に応じた適正な施肥	● 田植え(15日を中心)(播種~田植えは19日以内で計画する)	● やや深水で保溫	● 活着後は3cm程度の浅水管理	● 除草剤は遅れずに散布	● 早めの溝掘り	● (6月上旬までに完了)	● 中干し後は間断かん水を徹底	● 畦畔、農道等の草刈りの徹底	● 幼穗長の確認	● 幼穗長(1.5cm) 第4節間 第5節間	● 幼穗形成期から飽水管理	● 一発肥料田でも葉色が淡ければ追加施肥	● 一回目の施肥は幼穗長、葉色に応じて慎重に	● 二回目は一回目の一周間にしつかりと	● 穗割期の葉色を4.2~4.5に誘導	● 基本防除一回目(穂割期)	● 隨時防除(カメムシ多発時)	● フェーン時には事前にかん水	● (早めの落水はしない)	● 刈取5~7日前までの間断かん水	● 1.9mmのふるい目で丁寧に選別する	● 穂黄化率85~90%を目標に適期刈取の実施	● 硅酸質資材の施用	● 土づくり
	● 水管理	やや深水	浅水管理	溝掘り	中干し	間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水	落水は急がない	1.9mmのふるい目で丁寧に選別する	穂黄化率85~90%を目標に適期刈取の実施	土づくり																

病害虫防除

種子消毒	育苗時のカビ予防	苗箱施薬	隨時	1回目	2回目	傾穂期	随时
(種子10kgあたり)	(種子10kgあたり)	(種子10kgあたり)					
モミガードC水和剤	ナエファインプロアブル	イネミズソウムシ・イネドロオイムシ・イナゴ類	いもち病・稻こうじ病・変色米	穂割期	いもち病・カメムシ類・ウンカ類	カメムシ類・ウンカ類	カメムシ類・ウンカ類
水20㍑に100g使用する	播種時処理の場合	ノンプラス粉剤DL	ノンプラス粉剤DL	ビームスタークル	ビームエイトスタークル	キラップ	スタークリル粉剤DL
24時間消毒で1回のみ使用可	1,000倍液で1箱500㎖かん注	アミスターEイト(紋枯病も登録あり)	アミスターEイト(紋枯病も登録あり)	粉剤5DL	ゾル(1,000倍液)	キラップフロアブル	スタークリル液剤10
最初に種籽をよくゆする	(水100㍑に1本100㎖で苗箱200枚分)	紋枯病	紋枯病	10aに4kg	10aに100~150ℓ散布	1,000倍液	トレボン粉剤DL
消毒後は水洗いしない		モンカットファイン粉剤20DL	モンカットファイン粉剤20DL			10aに4kg	トレボン乳剤
		バシタックゾル	バシタックゾル				

土壌に応じた適正な施肥

◆コシヒカリ肥料設計の目安(kg/10a)◆					
土壤区分	一発肥料 (Jコトコシヒカリ)	分施体系(基肥206・追肥3号)			
	基肥	穗肥①			
沖積	砂壤土 壤土 埴壤土	32~36 27~33 23~27	32~36 25~30 20~25	10 10 10	13 12 10
洪積	赤土 黒土	27~30 32~36	25~30 32~36	10 10	10 12

*基肥量は地力や堆肥施用量に応じて加減しましょう。
*田植時に基肥施用量の確認をしましょう。
*一発肥料は安易に増やさず葉色をみて追加施肥で対応する。

詳細な施肥設計については
各地区営農経済センターへお問い合わせ下さい。

除草剤は適期に散布 (ラベルを確認して正しく使用する事)

田植	田植後	(10a当たり使用量)
0 +1 +3 +5 +10 +15 +20 +30	初期剤+中期剤 ピラクロン粒剤 ベッカク粒剤 初期中期一発処理剤	1kg 1kg 1kg
レプラス粒剤・ジャンボ (移植後14日~ノビ工4葉期、収穫60日前まで)		
注1 フイゴールSM粒剤 (移植後15日~ノビ工3.5葉期、収穫60日前まで)		
注1 15℃以下または30℃以上の場合は使用を避ける		
後期剤		
ヒエ、広葉雑草が残った場合 広葉雑草が残った場合 クサネム・イボクサが残った場合 ヒエが残った場合		
ウイードコア粒剤 ロイヤント乳剤 トドメバスMF液剤 バサグラン粒剤 ノミニー液剤 トドメMF粒剤・乳剤 ヒエクリーン豆つぶ		

*留意点: やや深めに水を張って、散布後7日間は落水やかけ流しをしない

品質・食味に差がでる土づくり

「土づくり」の3ポイント

1. 硅酸質資材100kgを目標に継続的な施用
2. 稲わら、堆肥・糞ガラ等の有機物の施用
3. 15cm以上の深耕の実施

◆土づくり資材の10a当たり標準施用量◆

資材名	珪酸質資材					
スーパー ケイサン+	シリカ 口マン	有機加里入 シリカロマン	鶏糞良好	グリーン ウエイブDX	発酵鶏糞	
施用量	90kg	100kg	100kg	100kg	75~105kg	
特徴	pHの矯正 ケイ酸の補給	pHの矯正 リソ酸等の補給	シリカマニ 有機質カリをプラス	pHの矯正 リソ酸等の補給	春施用の場合は 基肥窒素成分で 1kg減肥	
○上記の中から必要な資材を選んで使用してください						

栽培記録

区分	珪酸質資材、肥料名	施用月日	施用量	耕起(月日)	代かき(月日)	田植え(月日)	区分	時期	農業名	作業日	散布量	
土づくり		月 日	kg/10a	(月 日)	(月 日)	(月 日)	病害虫防除	育苗期	種子消毒	月 日	mℓ/箱	
		月 日	kg/10a	中干し(月 日)	落水(月 日)	刈取日(月 日)			月 日	月 日	月 日	50 g/箱
施肥	基肥	月 日	kg/10a	除草	農業名	散布月日	散布量	本田	苗箱施薬	月 日	/10a	
	追肥	月 日	kg/10a		月 日	月 日	/10a			月 日	月 日	/10a
	穗肥①	月 日	kg/10a		月 日	月 日	/10a			月 日	月 日	/10a
	穗肥②	月 日	kg/10a		月 日	月 日	/10a			月 日	月 日	月 日